
消極的彼女

夏木 岳

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

消極的彼女

【Nコード】

N9246B

【作者名】

夏木 岳

【あらすじ】

高校が終わっちゃう。好きなあの人もお別れ。でも、私は……

「もうすぐ卒業だね」

「そうだな」

部活の顧問の先生に呼び出されて、帰り道、私は好きな子と二人きり。だから何、ってわけだけど。

「あゆいちゃんって三葉大だっけ？」

「ああ、うん。そうだよ」

だから何、です。

後輩の南木春ちゃんみなみはるが彼といい感じになってるのに、私は焦るばかりでなにもできなかった。

ミナミちゃん。部活。

私。部活、学年、クラス。修学旅行では一緒の班。

そんなに接点ありながら、何もしてないなんて私は何なんですか。あれですか。

そうですか。

「消極的彼女」

これですね。

「ふう……」

中学二年生の時に陸上始めて、短距離を頑張ったけどうまくいなくて辞めて。長距離に転向したら、少しはマシだったから高校でも続けようと思った。

入学して、入部して。そして彼と出会った。第一印象は最悪。私

は必死なのに、ふにやふにやとやる気のかけらも見せない、仲間とふざけながらの部活。

遊びじゃないんだよ——そんな、気の弱い私には言えず。何が出来るのかと思えば、無視して黙々と走るばかり。

彼らには腹が立っていた。

でも。

「かつこよかったなあ」

二年生になり、後輩が出来た途端に真面目になった。真面目とまではいなくても、真剣になって。遅くまで居残ったりしてた。

気になって覗くと、薄暗いグラウンドに……

「二人!？」

ちよつと。ミナミちゃんがいた。ミナミちゃんと二人きりじゃん。私は今更気付いた。

その差じゃないか。彼とミナミちゃんだけってことは、それだけ同じ目的の、共通の時間を過ごしたってこと。

「うわ、うわわわわっ」

そんな、私勝ち目ないじゃんか!

いやいやいや、でも練習中に会話するのは……

「私でもできたよ!」

そう、別に私と変わらない……

「帰り道一緒じゃん!？」

いやいやいや、大丈夫大丈夫。

「どこが大丈夫なの!？」

空しい一人ツツコミ。

「つつこんでよ。一人じゃ淋しいよ」

淋しいのは、本当に。

あの人を想って、変なこと言って、落ちこんで。

私はどうすればいいんだろう?

「告白……かな」

そんなの、私にはできっこない。

そんな度胸、少しも無いんだから……

日に日に少なくなつてく、自由登校の人数。彼がいるから。そう期待したら、やっぱりいなかった。

もうすぐ卒業式だ。その日になれば、絶対に会える。

私はしょんぼりしながら教科書を鞆に詰めた。重たくなった鞆を背中に背負う。

はあ。気も重いな。

「あれ、あゆいちゃん」

「へえ!？」

生徒玄関で彼と鉢合わせした。鉢合わせ、鉢合わせ、ああ、落ち着け私。今みたいなすつ頓狂な声はダメ。平静に平静に。

よし。

「こんにちはっ!」

「えーっと、こんにちは……?」

待ってよ、こんにちはじゃない、私ちつとも大丈夫じゃないじゃん!

彼も戸惑ってるし。ああ、私のバカ……

「ぶ、部活見てたの?」

「ああ、うん。で、ちよつとスパイクとりに行こうとしてさ」

チャンスだよ、あゆい! 私の中の天使が叫んだ。悪魔は顔を真っ赤にしてふてくされてる。

よし、ついてけ。彼についていくんだ、あゆい!

「そうなんだ」

はい、むりでした。やっぱり臆病者です。私にはやっぱり彼とどうにかなるうなんて……

「一緒に来る?」

「いいの?」

「いや、だいたい同じ陸上部だし」
やったやったやった。

私はガッツポーズを心で上げると、自然と笑顔になり、彼の後ろにくっついた。

今日は、良い日。

教室のロッカーから、戻るまで、いろいろ話した。

受験が大変だったとか。大学では何するとか。将来の目標とか。でもやっぱり、陸上の話だった。出てくるのは、短距離仲間とミナミちゃんの名前。

悔しい。あなたの声で私の名前はない。

ドキドキしたり、勝手に落ち込んだりしながら、グラウンドに着いた。

「おーコハルー！ サボってんじゃねーぞー！」

「休憩だバーカ！」

早々、陸上部名物が始まった。先輩と後輩の口喧嘩。

でも、見ていていがみ合ってるようには映らない。もっときれいなものに感じてしまう。

なんだよ、もう。見せつけられてるようで嫌だ。好きな彼なのに。

「仲良いね、ミナミちゃんと」

「違っよ」

「うっん、本当に羨ましい」

こんな嫌味じみたことまで出てくる。

「それより、スタートお願いしまッス」

「……わかりました」 陸上部の掛け声でお願いされて、私は制服のままだけど了解した。またブルーのまま、レーンの横に立つ。

クラウチングスタートの台に乗る二人。並んで目を合わせて、彼は不敵ににやり。ミナミちゃんはムカツと口をとがらせ、そっぽを向いた。

「位置についてエ」

よォい、ドン。二人して一緒に出たのに、ミナミちゃんが前に出

た。

もちろん私は彼を応援した。

二年生の冬の大会でも、観客席から彼をこんな風に見てた。本当に好きになった、あの屈辱の日。

なぜだかわからないけど、その場面が頭に浮かんだ。

一年生のままの不真面目だったら、結果は惨敗だったと思う。でも彼は頑張ってた。あんなに練習したんだから。

それでも、喰い付くのがやっと。

結局、彼は負けた。

しょうがない、一年の時散々バカやってたんだし。そう彼は笑ってた。

でも、私は見ていた。

その後、知らないうちにいなくなった彼を探した。人通りのない東通路に、彼は一人。

こっちからは、がつくりと落とした背中しか見えなかった。でも、汗よりも悲しみが染み込んでるようで。声をかけようとしたとき、彼は壁を叩いた。

彼に、笑う余裕なんてなかったのに。

悔恨に浸る彼を見ていて、気がつくとき泣いていた。

帰りのバスに彼は乗らなかった。監督の制止を一喝して、彼は走って帰った。

「……ううん、頑張ったんだから」

彼の悔しさは、よくわかってる。

彼の努力は、よくわかってるから。

負ける要素なんて、ないよね。

出遅れた彼とミナミちゃんの差は、見る見る縮んでいく。

やった、勝った！

私はゴール先にいる彼の元へ走ろうとした。

でも。

「っしや、俺の勝ち！」

「僅差だっただろ！？ 次は私が勝つから！」

終わった後、あれこれ言う彼が、叩くミナミちゃんがなんだか恋人のように見えて。

「やっぱり、帰ろ」

あっさりと踵を返した。

なんで、こんな嫌な自分がいるのかな。

もうすぐ会えなくなるのに、何もしない自分がいるのかな。

できないってのは、言い訳。

誰よりも好きなのに。

ついに卒業式。

私は今日で答えを決める。

彼がミナミちゃんを選ぶから、諦める。誰もいないなら、私は告白する。

でも、本当はわかってる。

私よりもミナミちゃんの方が好かれてるって、ミナミちゃんの影響の方が大きいって。

二年生になって……後輩じゃなくて……ミナミちゃんができたから。彼はあんなにも必死になれたんだって。

私は、知ってたんだ。

式が終わって、花道を過ぎると、途端に彼は慌て始めた。私は彼に近寄ろうとしたけど、遠ざかっていく。彼は卒業生の波をかき分

けて、どこかへ行ってしまった。

声を掛ければ止めれるから。今のうちに告白して。

「イヤ、止まってよ」

自分でも信じられないのは、からだは勝手に動いたこと。

私は走って、走って。

でも探してもいない。三階の私の教室まで上がって、やっと見つけた。窓の向こう。グラウンドの、陸上部でよく使ったベンチのところで。

急いで。急いで。

あなたに伝えたい。聞いて欲しいの。

好きって。

「うわ、うわわわわっ」

気恥ずかしい！ でも、言いたいな。

あと少しだから。この角を右に入れば、すぐ。

「あ——」

曲がる直前、角からミナミちゃんが猛スピードで飛び出してきた。真っ赤な顔だけど、抑えきれないような喜びの笑顔。

曲がれば、彼と、お互いに走って擦れ違った。彼は私を一瞬だけ見て、そして私の背後、ミナミちゃんを見つめた。

彼の顔は、とてもうれしそうで。

「ふられちゃったなあ」

ミナミちゃんだよ、あゆい。

ほら、やっぱりね。

誰もいないグラウンドに呟いた消極的な言葉は、涙にも雑踏にも、そして後悔にも紛れて消えていく。

「少しくらい、振り向いて欲しかったかも」

それは、なんて消極的な――

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9246b/>

消極的彼女

2010年10月8日15時49分発行